
詩集

弘道

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

詩集

【Nコード】

N6038Z

【作者名】

弘道

【あらすじ】

今までヤフプロの方に載せていた詩をこっちに移す事にします。

書いてたのが大分前なので中二病丸出しの小っ恥ずかしい詩ですが、私を形成する一部なのでここに晒しておきます。

軽く鬱っぽい表現が多いですが大目に見てください。

落差の激しい、矛盾もしょっちゅうあるブレブレの信念が書き上げ

たものなので非常に残念な仕上がりですが、どうぞチラリと読んでください。

『私』 『私は創る』 『刻む』

『私』

理不尽な怒りに追われて
理不尽な妬みを抱えて。

私は思いを、想いを表す術をしらず、
ただ、積もる思いを、想いを、なにもしらぬ幼子のように、
叩きつけ、投げすて、
泣きわめき、ただたださげび、

そしてまた私は。
私は、私は、私が。

『私は創る』

誰も私を愛してくれないから

私は今日も産み出そう

此の手から産み出された仔達は私を愛してくれるから

私は今日も此の手から新たな命を創り出そう

『刻む』

私は、「私」という精神が、感情が、人格が、存在が、ここに有ったということをも、

「私」をここに刻み付けたい。

今、私は生きている。

今、私は考えている。

今、私は息をしている。

今、私は死んでいつている。

私が死ねば、「私」が居た、という事が証明出来なくなる。

私が背負った、数え切れない、生きる為に絶った命たち、私に命を受け渡した先祖達の命が薄れる。

私がたとえ子を残したとしても、いつかは私は時に忘れられる。

歴史に名を刻んだっていずれかは忘れられる。

世界に名をしらしめたって、時に流される。

石に名を刻んだって、風化し、ただの砂と化す。

私はそんなことは望んでない！

風に乗り、雨と共に降り、空に広がり土に帰す。

涙する者の横で共に泣き、歓喜する者の後ろで微笑み、一人の者に、人の暖かさを伝えたい。

ずっと考えたい、走りたい、踊りたい、跳ねたい、歌いたい。

私は、私は此処に有る！

私は、此処で考えている！

私は、此処で想っている！

私は、此処で死へと進んでいる。

私は、生きる、活きる、息をする！

私は、思う、想う、憶う！

私は此処に有る！此処に、私は存在する！

空よ、宇宙よ、風よ、海よ、大地よ、私は有る、ただただ此処に有る！

いつか、全てのモノが私を忘れても、確かに私は此処で生きた！思った、此処に有った！

忘れるな、私は此処に有る！

『欲しい欲しいと喚くで無く。』 『排水溝に、ボールがひとつ』

『欲しい欲しいと喚くで無く。』

死にたい。

そう言つと

おひとよしのおせつかいは

なぜ？どうして？死んじゃだめ。生きて。

うわべだけの気遣いで、つきまとう。

はくじょうものあの子は

死ねば？だれも気にしないよ。

そう言つて突き放す。

違う、私が欲しいのはうるさく付きまとう粘々の薄汚い、メッキで飾られたその言葉ではない。

でも、無関係、興味無しその突き放す刺々しいその言葉でもない。

私が欲しいのは、ただ、頑張ったねと、私を、ちっぽけで汚い私を

肯定して、それ以上頑張らせない、労りの言葉が欲しいんだ。

『排水溝に、ボールがひとつ』

とある排水溝の中に忘れ去られた一つのボールがあった。

いつかのあの夏の日、少年と戯れた、

あの寒い冬の日、青年と夢を追いかけた、

ひとつのボールがあった。

少年とは大きくなり青年と成った。

青年は壁にぶつかり大きくなり大人と成った。

大人になった彼は夢を諦め、忘れ、そのボールは時に置き去りにされた。

ボールは小さかった少年の喜びと、青年の悔し涙を抱えて、たったひとつで排水溝のそこにくろがっていた。

いつか少年は思い出さるだろうか？

あの少年だった日々を。

全力をかけて追いかけた夢を。

共にすごしたボールの事を。

『彼らへ』 『月』 (前書き)

今回はちょっと明るのかな…

『彼らへ』 『月』

『彼らへ』

生まれてくる命達、

貴方達は神に祝福されて、

死んでいった命達を背負って、

親達のもとへとやってきたんだから、

周りは死んでいった命のために、

彼らを背負って生まれてきた命のために、

命の芽吹きを祝福して、

この子達に同じ悲しみが降りかからないよう祈り、

彼らを背負って生まれてくる命達を、彼らの分も愛さなさい。

死んでいった命達、

遺された人達、

辛いでしょう、

悲しいでしょう、

寂しいでしょう、

でも、死ぬことは永遠の別れじゃないから。

すぐ、上でまた会えるから。

だから、遺された人達はまた次会えるときに、

「こつちはいろいろあつたけど、笑って生きたよ」
つて言えるように、
向こうへいった命達が心配しなくてすむように、
精一杯生きのびなきゃ。

だから、下を向かないで。

涙が枯れないなら流し続ければいいから。

忘れられないなら忘れなければいいから。

大切な、大切な人達を、

どうか悲しませないで…。

『月』

貴方は、月のようだと思う。

綺麗で、太陽のようにぎらつくこともなく、ただただひっそりと夜
を照らしてくれている。

僕はそんな貴方に触れたくて、昔、月をもとめたあの人達のように、
必死に手を伸ばすけど。

あの物語、最後にあの人はどうなったんだっけ。

でも、あの有名なアポロ十一号は月にたどり着けていたから、

きっと僕も大丈夫、

だからアポロをつくった人たちの様に、

空に向かって手を伸ばし続けたあの本の主人公のように、

僕も貴方へ向かって手を伸ばし続けよう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6038z/>

詩集

2011年12月23日00時48分発行